

位ぢもくと申は、院内の御はからひにもあらず、攝政關白の御せいばいにもおよばず、たゞ一向平家のまゝにて有ければ、徳大寺花山の院もなり給はず、入道相國のちやく男小松殿○重盛其時はいまだ大納言の右大將にてまじくけるが、左にうつりて、次男むねもり中納言にておはせしが、すばいのまやうらうをてうをつきて、右にくはゝられけるこそ申ばかりもなかりしか、中には徳大寺殿は一の大納言に花族えいゆう才覺ゆうちやうげちやくにてまじくけるが、平家の次男むねもりの卿にかゝいこえられ給ひぬることいこんのまだいなれ、定て御出家などもや有んずらんと人々まゝやまおはれけれども、徳大寺殿はまばらく世のならんやうをみると、大納言を辞して籠居とぞ聞えし、新大納言なりちかの卿の宣ひけるは、徳大寺花山院にこえられたるんはいかにせん、平家の次男宗もりの卿にかゝいこえられぬることいこんのまだいなれ、いかにして平家をほろぼし、本もうをどげんと宣ひけるこそおそろしけれ、

〔玉海〕治承三年十一月十四日戊辰、今日入道相國○平清盛入洛、宗盛卿去十一日首途、令參嚴嶋、而自路

呼還、相共上洛、武士數千騎、人不知何事、凡京中騷動、無雙今夜出仕、雖非無所恐、爲勤公事出仕、不可

有横災之由、深存忠、仍令參仕之處、果以無爲、凡洛中人家運資財於東西、誠以物忿亂世之至也、

十五日己巳、凡世間物忿無極云云、無聞實說子刻人傳云、天下大事出來云云、不聞委事間、寅刻大夫

史隆職注送云、

關白藤基通

内大臣同

氏長者同

止關白

藤基房